

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を未書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
330	80.48	83.12	CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。 全体にφ2~3mm/暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。	80.48	83.12	CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。 ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。 全体にφ2~3mm/暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。 長石の白濁化は殆んど認められない。	80.48	83.12	80.48~83.12m:CH 堅硬で概ね未風化の岩盤で、割れ目には挟在物は分布しない。ゆ着割れ目はなく、密着度の低い割れ目はごく一部に分布する程度。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石)が晶出している。長石の白濁化は殆んど認められない。	
331	81.10	81.35	φ2~5mm/mの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調おひる。 劣化は伴わない。	81.10	81.35	φ2~5mmの斑点状にマンガン鉱染受け灰褐色色調帯びる。 劣化は伴わない。	81.10	81.35	81.10~81.35m:径2~5mmの斑点状にマンガン鉱染を受け、灰褐色を帯びる。劣化は伴わない。	
332	82.10	82.30	珪化変質によりφ5~10mm/斑点状~幅10mm脈状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。	82.10	82.30	珪化変質によりφ5~10mm/斑点状~幅10mm脈状の石英が晶出し上下位よりも更に硬質となっている。	82.10	82.30	82.10~82.30m:珪化変質により径5~10mmの斑点状~幅10mmの脈状の石英が晶出し、上下位よりも硬質となっている。	
333	82.72	82.86	コア中に密着度の低い割れ目を含む	82.72	82.86	コア中に密着度の低い割れ目を含む	82.72	82.86	82.72~82.86m:密着度の低い割れ目を含む。	
334	83.12	83.79	CL 83.46m以浅は20~50° 割れ目が多く、割れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟質化する。 83.46m以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。	83.12	83.79	CL 83.46m以浅は20~50° 割れ目が多く、割れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟質化する。 83.46m以深は割れ目は多いが硬質で挟在物も殆んど分布しない。	83.12	83.79	83.12~83.79m:CL 83.46m以浅は20~50° の割れ目が多く、割れ目ぞいに砂状化が進む。マンガン鉱染も伴う。岩片自身も硬さ「D」に軟質化する。83.46m以深は割れ目は多いが、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	
335	83.79	84.43	CM 堅硬。 84.35~84.38mで10~15° 割れ目ぞい、ごく薄く風化。砂状化する以外は割れ目挟在物は分布しない。一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。	83.79	84.43	CM 堅硬。 84.35~84.38mで10~15° 割れ目ぞい、ごく薄く風化。砂状化する以外は割れ目挟在物は分布しない。一部にゆ着割れ目が分布するが密着度高く、ハンマー打撃でも分離しない。	83.79	84.43	83.79~84.43m:CM 堅硬。84.35~84.38m間が10~15° の割れ目ぞいごく薄く風化。砂状化する以外は割れ目挟在物は分布しない。一部にゆ着割れ目が分布するが、密着度が高く、ハンマーの打撃で分離しない。	
336	84.43	84.61	CL 硬さ「C」岩片主体。多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化、粘土化なし	-	-	-	84.43	84.61	84.43~84.61m:CL 硬さ「C」の岩片主体。多くの割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化するが、粘土化はない。	
337	84.61	85.50	CL 硬さ「D」岩片主体 一部で割れ目ぞいに風化。砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。	84.61	85.50	CL 硬さ「D」岩片主体 一部で割れ目ぞいに風化。砂状化が進む部分もある。 長石の白濁化が目立つ。	84.61	85.50	84.61~85.50m:CL 硬さ「D」岩片主体。一部で割れ目ぞいに風化。砂状化が進む部分もある。長石の白濁化が目立つ。	
338	85.15	85.15	50° 幅5m/軟質な灰白色粘土脈はさむ。	85.15	85.15	50° 幅5mm軟質な灰白色粘土脈挟む。	85.15	85.15	85.15m:50° で幅5mmの軟質な灰白色粘土脈を挟む。	
339	85.24	85.35	砂状化が進んでいる。40° 前後の割れ目が残留	-	-	-	85.24	85.35	85.24~85.35m:砂状化が進む。40° 前後の割れ目が残留する。	
340	85.24	85.35	(岩級区分欄)D	85.24	85.35	(岩級区分欄)CL	85.24	85.35	(岩級区分欄)CLに含める	
341	85.50	85.58	D 粘土化が進む。	-	-	-	85.50	85.58	85.50~85.58m:D 粘土化が進む。	
342	85.50	85.70	(岩級区分欄)D	85.50	85.70	(岩級区分欄)CL	85.50	85.70	(岩級区分欄)CLに含める	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
343	85.58	85.76	破砕帯(主せん断面85.63m)	85.58	85.76	破砕帯(最新活動面85.63m)			●85.58~85.76m:破砕帯 85.58~85.63m:粘土混じり岩片状部(H) 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mmの硬さ(D)岩片と岩片間の粘土状部からなる。上端付近に幅5mmの石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。灰黄色を呈する。幅35mm。 85.63~85.64m:硬さ(D)岩片と岩片間の粘土混じり岩片状部(Hc-2) 傾斜48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mmの石英粒。径5mmの硬さ(D)岩片を10%含む軟質。淡黄色を呈する。幅5mm。 85.64~85.76m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色粘土土として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mmの灰白色粘土土が分布し、これに深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。全体には「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は淡黄(2.5Y 8/3)~にぶい褐色(7.5YR 6/3)、厚さ100~120mm。			硬軟。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無。境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
344	85.58	85.63	H 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mm、硬さ(D)岩片と岩片間の粘土部からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。上端付近に幅5mm石英脈が主せん断面とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。色調は灰黄(2.5Y 7/2)、厚さ35mm/m	85.58	85.63	H 上端40°で直線的に、下端48°で一部不明瞭ながら直線的に連続。径5~10mm、硬さ(D)岩片と岩片間の粘土部からなり「粘土混じり岩片」状を呈する。上端付近に幅5mm石英脈が下位のHc-2の粘土とほぼ同方向に分布するが途中で消滅する。色調は灰黄色(2.5Y 7/2)、厚さ35mm。 やや硬質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
345	85.63	85.64	Hc-2 48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mm石英粒、径5mm、硬さ(D)岩片を10%含む軟質粘土(砂状)。色調は淡黄(2.5Y 8/3)、厚さ5m/m	85.63	85.64	Hc-2 48°で、上端は一部不明瞭ながら直線的に連続。下端は波打って連続。径2~3mm石英粒、径5mm、硬さ(D)岩片を10%含む軟質粘土(砂状)。色調は淡黄色(2.5Y 8/3)、厚さ5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	85.58	85.76				
346	85.64	85.76	H 上端48°で波打って、下端32°で幅1~2mm/mの軟質な灰白色(2.5Y 8/2)粘土土として直線的に連続。主せん断面と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mm/m灰白色(2.5Y 8/2)粘土土が分布。85.68m~53°のシャープなせん断面が分布し、これに深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。全体には「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は淡黄(2.5Y 8/3)~にぶい褐色(7.5YR 6/3)、厚さ100~120mm/m	85.64	85.76	H 上端48°で波打って、下端32°で、幅1~2mmの軟質な灰白色(2.5Y 8/2)粘土土として直線的に連続。上位のHc-2の粘土と同方向に斜交する割れ目で径5~10mmに岩片化している。岩片間の一部は粘土~砂状化し、幅1mm灰白色(2.5Y 8/2)粘土土が分布し、これに深は一部でマンガン鉱染を受け黒褐色化する。全体には「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は淡黄(2.5Y 8/3)~にぶい褐色(7.5YR 6/3)、厚さ100~120mm。 やや硬質。含まれる細粒部は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
347	85.76	87.47	OL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」岩片主体で、後者では一部で短柱状コアを含む。前者では割れ目ぞいの一部で砂状化する。	85.76	87.47	OL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」岩片主体で、後者では一部で短柱状コアを含む。前者では割れ目ぞいの一部で砂状化する。	85.76	87.47	86.76~87.47m:CL 86.52m以浅は硬さ「D」、86.52m以深は硬さ「C」の岩片主体で、後者では一部で短柱状コアを含む。前者では一部の割れ目ぞいが砂状化する。			
348	85.76	86.00	石英を径10mm/m斑点状~幅2mm/m、20°脈状に含む。	85.76	86.00	石英を径10mm/m斑点状~幅2mm、20°脈状に含む。	85.76	86.00	85.76~86.00m:径10mmの斑点状や幅2mm、20°の脈状に石英を含む。			
349	87.47	84.90	(岩級区分欄)CH	87.47	87.90	(岩級区分欄)CL	87.47	87.90	(岩級区分欄)CLに含める			
350	87.47	84.90	CH 堅硬、長石の一部は白濁化する。一部でゆ着割れ目を含むが密着度高くハンマーの強打でも分離しない。	87.47	87.90	CH 堅硬、長石の一部は白濁化する。一部でゆ着割れ目を含むが密着度高くハンマーの強打でも分離しない。	87.47	87.90	87.47~87.90m:CH 堅硬、長石の一部は白濁化する。一部でゆ着割れ目を含むが、密着度が高くハンマーの強打で分離しない。			
351	87.90	88.38	OL 割れ目ぞいの一部は風化で薄く砂状化する。密着度の低いゆ着割れ目が多く、ハンマーの打撃でゆ着割れ目ぞいに分離・細片化し易い。	87.90	88.38	OL 割れ目ぞいの一部は風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目ぞいに分離・細片化し易い。	87.90	88.38	87.90~88.38m:CL 一部の割れ目ぞいは風化で薄く砂状化する。密着度の低い潜在割れ目が多く、ハンマーの打撃で潜在割れ目ぞいに分離・細片化し易い。			
352	87.90	88.42	(実質欄)3ランク	87.90	88.42	(実質欄)2ランク	87.90	88.42	(実質欄)2ランク			
353	88.38	88.43	(岩級区分欄)D	88.38	88.43	(岩級区分欄)CL	88.38	88.43	(岩級区分欄)CLに含める			

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
354	88.38	88.43		88.38	88.43	破砕帯(主せん断面88.43m)	88.38	88.43	●88.38~88.43m:破砕部 88.38~88.42m:砂混じり岩片状部(Hg) 傾斜50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。下位のHc-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35m/m	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
355	88.38	88.42	Hj 50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。 主せん断面と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35m/m	88.38	88.42	Hj 50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。 下位のHc-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35m/m。 <b>硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。</b>	88.38	88.43	●88.38~88.43m:破砕部 88.38~88.42m:砂混じり岩片状部(Hg) 傾斜50°で、上端は直線的な密着割れ目、下端は直線的に連続。下位のHc-1の粘土と同方向の割れ目が数本と、これらに斜交する割れ目により径5~10mmに岩片化している。粘土は殆んど伴わないが一部の岩片間では砂状化する。全体に「砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい橙(7.5YR7/3)厚さ35m/m。 88.42~88.43m:粘土状部(Hc-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない。 軟質、明黄褐色を呈する。幅5mm。	
356	88.42	88.43	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐(10YR6/6)、厚さ5m/m	88.42	88.43	Hc-1 90°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を殆んど含まない軟質粘土(ガウジ)、色調は明黄褐色(10YR6/6)、厚さ5mm。 <b>原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。</b>	88.42	88.43		
357	88.43	88.92	(変質帯)3ランク	88.43	88.92	(変質帯)2ランク	88.43	88.92	(変質帯)2ランク	
358	88.43	88.88	CL 20~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。	88.43	88.88	CL 40~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。	88.43	88.88	88.43~88.88m:CL 20~40°の低角度で直線的な割れ目が多い。一部で砂を挟む。	
359	88.88	88.94	破砕帯(主せん断面88.92m)	88.88	88.94	破砕帯(最新活動面は88.92mか88.94mの可能性はある)		88.88	●88.88~88.94m:破砕部 88.88~88.92m:粘土・砂混じり岩片状部(Hg) 傾斜30°で、上端は幅0.5mmの軟質白色粘土帯で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHc-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でこく薄粘土~砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。幅25~35mm。 88.92~88.94m:砂混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜30°で、上下端とも直線的に連続。径1~3mmの石英粒、径5mmの粘土化岩片を計15%含む。軟質、灰白色を呈する。幅15~20mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
360	88.88	88.92	Hj 30°で、上端は幅0.5mm/mの軟弱白色粘土帯で直線的に、下端も直線的に連続。主せん断面と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でこく薄粘土~砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい黄褐(10YR7/2)、厚さ15~20m/m	88.88	88.92	Hj 30°で、上端は幅0.5mmの軟弱白色粘土帯で直線的に、下端も直線的に連続。下位のHc-2の粘土と同方向に細かい割れ目が発達し、径5mmの岩片に細片化している。岩片間は幅1mm以下でこく薄粘土~砂状化する。全体に「粘土・砂混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい黄褐色(10YR7/2)、厚さ25~35mm。 <b>硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。</b>	88.88	88.94		
361	88.92	88.94	Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片計15%含む軟質乾燥しり粘土(ガウジ)、色調は灰白(7.5Y7/2)、厚さ15~20m/m	88.92	88.94	Hc-2 30°で、上下端とも直線的に連続。φ1~3mm石英粒、φ5mm粘土化岩片計15%含む軟質乾燥しり粘土(ガウジ)、色調は灰白(7.5Y7/2)、厚さ15~20mm。 <b>原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。</b>				
362	88.94	91.69	D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅はφ5~20mmの硬さ「C」「D」岩片が残留し、固結砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留し、割れ目の一部は残留し40~60°が主体。	88.94	91.69	D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅はφ5~20mmの硬さ「C」「D」岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする「砂礫状」を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60°が主体。	88.94	91.69	88.94~91.69m:D 割れ目沿いに風化が進み、砂状化部が拡大している。90.81m以浅は径5~20mmの硬さ「C」「D」の岩片が残留し、硬質な砂状部を基質とする砂礫状を呈する。原岩組織はほぼ消滅している。90.81m以深は硬さ「D」の岩片主体で原岩組織と割れ目の大半は残留している。割れ目は40~60°が主体。	
363	90.45	90.81	(色調帯)7.5YR6/3 にぶい褐	90.45	90.81	(色調帯)7.5YR4/2 灰褐	90.45	90.81	(色調帯)灰褐	
364	90.50	90.50	60°、厚2~3m/mの石英脈が分布	90.50	90.50	60°、幅2~3mmの石英脈が分布	90.50	90.50	90.50m、60°で幅2~3mmの石英脈が分布。	
365	-	91.47	91.47m以深では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	-	-	-	-	91.47	91.47m以深では残留岩片の割れ目や砂状基質部の一部がマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「J」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
366	91.04	91.20	91.04	91.20	91.04mと91.20m割れ目に厚さ1mmの軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。	91.04	91.20	91.04mと91.20m 割れ目に幅1mmの軟質な灰白色粘土が脈状に分布。前者ではマンガンと後者では砂を伴っている。	
367	91.60	-	91.60	-	91.60m以深ではφ3mm長石斑晶が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。	91.60	-	91.60m以深ではφ3mm長石斑晶が多くなる。このうち、主せん断面近傍では長石が主せん断面方向に配列する。	
368	91.69	91.76	91.69	91.76	破砕帯(主せん断面91.70m)	91.69	91.76	破砕部(最新活動面91.70m)	
369	91.69	91.70	91.69	91.70	Hc-1 51'で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5mmと微小な石英粒を約5%含む軟弱粘土(カウジ)。色調は明褐色(7.5YR7/2)～灰褐色(7.5YR5/2)で縞状を呈する。 上端側の一部に白色粘土脈とマンガン鉱染伴う。厚さ3～8mm	91.69	91.70	Hc-1 51'で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ0.5mmと微小な石英粒を約5%含む軟弱粘土(カウジ)。色調は明褐色(7.5YR7/2)～灰褐色(7.5YR5/2)で縞状を呈する。 上端側の一部に白色粘土脈とマンガン鉱染伴う。厚さ3～8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	
370	91.70	91.72	91.70	91.72	Hb 上端51'で直線的に、下端53'で波打って連続。φ1～3mm石英粒。φ5mm前後の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質な「硬質粘土」状を呈する。色調は灰白(7.5YR8/1)、厚さ7～12mm	91.70	91.72	Hb 51'で直線的に、下端53'で波打って連続。φ1～3mm石英粒。φ5mm前後の硬さ「D」岩片を約20%含む軟質な「硬質粘土」状を呈する。色調は灰白(7.5YR8/1)、厚さ7～12mm。 細粒部は直線的に乏しい。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	91.69
371	91.72	91.76	91.72	91.76	Hj 上端53'で波打って、下端45'で直線的に連続。主せん断面と同方向～20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5～10mmに岩片化している。岩片間に主せん断面と同方向の幅0.5～1mm軟弱な白色粘土脈が分布する。全体として粘土混じり岩片状を呈する。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)、厚さ30～40mm	91.72	91.76	Hj 53'で波打って、下端45'で直線的に連続。上位のHc-1の粘土と同方向～20°斜交の細かい割れ目が多く、φ5～10mmに岩片化している。岩片間に上位のHc-1の粘土と同方向の幅0.5～1mm軟弱な白色粘土脈が分布する。全体として「粘土混じり岩片」状を呈する。色調はにぶい褐色(7.5YR5/3)、厚さ30～40mm。 硬質、挟在する白色粘土脈は不連続で、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
372	91.76	94.80	91.76	94.80	CL 密着度がきわめて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打でφ10～30mmの小岩片に分離・細片化する。	91.76	94.80	CL 91.76～94.80m:CL 密着度が極めて低い割れ目を多く含み、ハンマーの軽打でφ10～30mmの小岩片に分離・細片化する。	
373	-	93.00	-	93.00	93.00m以深はコア長3～5cm主体の短柱状コア。93.00m以深はゆる割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1～2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目付近に砂状化することがある。マンガンをはさむが、粘土脈は殆んど分布しない。	-	93.00	93.00m以深はコア長3～5cm主体の短柱状コア。93.00m以深はゆる割れ目も含め、割れ目が密集し、コア長1～2cmの片状コアが主体。また、長石の大半は白濁化し、割れ目付近に砂状化することがある。マンガンを挟むが、粘土脈は殆んど分布しない。	
374	92.09	92.09	92.09	92.09	φ10mm緑泥石が30°割れ目で切断されるが変位はない。	92.09	92.09	φ10mm緑泥石が30°割れ目で横断されるが変位はない。 低角度の割れ目は別の中角度の割れ目で止められ、かつ両方の割れ目に細粒部を伴わない。割れ目周辺の岩盤に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。	
375	92.18	92.24	92.18	92.24	92.18m・70°～92.24m・44°間はφ5～10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。	92.18	92.24	92.18m・70°～92.24m・44°間はφ5～10mmの岩片状に砕け、各割れ目面にマンガンが付着する。	
376	92.65	92.65	92.65	92.65	55°割れ目に幅2mmマンガン脈を脈状にはさむ。	92.65	92.65	55°割れ目に幅2mmマンガンを脈状に挟む。	
377	93.81	94.13	-	-	硬さ「B」で割れ目に挟在物は分布しない。	-	-	93.81～94.13m:硬さ「B」で割れ目に挟在物は分布しない。	
378	93.81	94.13	93.81	94.13	(コアの硬さ欄)Jランク	93.81	94.13	(コアの硬さ欄)Bランク	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
379	94.26	94.38	94.26	94.38	φ5~10mmの大型石英斑晶が点在する。一部は35~50° 割れ目で切断されている。	94.26	94.38	94.26~94.38m: φ5~10mmの大型石英斑晶が点在する。35~50°の割れ目に細粒部は見られない。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
380	94.80	97.96	94.80	97.96	CH 全体が緑灰色化する。 概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。 挟在物を含まない割れ目が主体であるが、処々に割れ目挟在物が認められる。	94.80	97.96	94.80~97.96m: OI1 全体が緑灰色化する。概ね新鮮であるが、一部の割れ目沿いに風化による褐色化が進む部分もある。挟在物を含まない割れ目が主体であるが、所々に割れ目挟在物が認められる。	
381	95.46	95.46	95.46	95.46	55° 割れ目ぞい幅10~15mmが褐色化し、硬さ「D」に軟質化。上端側に幅7mm方解石を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。	95.46	95.46	95.46m: 55°の割れ目沿いに幅10~15mmが褐色化し、硬さ「D」に軟質化する。上端側に幅7mmの石英を脈状に伴うが、同脈は途中で尖滅している。	
382	95.90	96.00	95.90	96.00	割れ目が10~20mの間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟質化するが砂状部は分布しない。	95.90	96.00	95.90~96.00m: 割れ目が10~20mの間隔で交差し、風化で褐色化、硬さ「D」に軟質化するが、砂状部は分布しない。	
383	96.60	96.63	96.60	96.63	割れ目ぞい幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mm砂状部を挟む。	96.60	96.63	96.60~96.63m: 割れ目沿いに幅10mm程度が淡褐色化し、幅1~2mmの砂状部を挟む。	
384	97.36	97.36	97.36	97.36	35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈を挟む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布。	97.36	97.36	97.36m: 35° 割れ目に淡緑色シルト~細砂脈を挟む。その直下の97.65mまで密着度の低い割れ目が多く分布する。	
385	97.96	99.44	97.96	99.44	(実質欄)3ランク	97.96	99.44	(実質欄)2ランク	
386	97.96	98.48	97.96	98.48	CM 岩片は硬いが、割れ目ぞいの砂状化も認められる。粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	97.96	98.48	97.96~98.48m: CM 岩片は硬いが、割れ目沿いの砂状化が認められる。粘土化部や粘土脈は少ないが長石の白濁化が多い。	
387	-	-	98.36	98.36	50°の割れ目に幅2~5mmの灰緑色シルト~粗砂挟む。	98.36	98.36	98.36m: 50°の割れ目に幅2~5mmの灰緑色シルト~粗砂を挟む。	
388	98.48	101.31	98.48	101.32	CL 割れ目ぞいの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。	98.48	101.32	98.48~101.32m: CL 割れ目沿いの砂状化部が多くなる。粘土は殆んど分布しないが、長石は概ね白濁化する。99.44m以浅は岩片は硬質、以深は風化で軟質化している。	
389	99.16	99.45	-	-	長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。	99.16	99.45	99.16~99.45m: 長さ10cm前後の柱状コアが中石的に分布する。	
390	99.44	99.90	99.44	99.90	割れ目ぞいに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。	99.44	99.90	99.44~99.90m: 割れ目沿いに風化・砂状化し、岩片自身も上下位に比べ軟化する。	
391	99.76	99.90	99.76	99.90	特に99.76~99.90mでは40° 割れ目ぞい砂状化が進み岩片も一部硬さ「D」まで低下	99.76	99.90	特に99.76~99.90mでは40°の割れ目沿いに砂状化が進み、一部の岩片は硬さ「D」となる。	
392	99.90	100.00	99.90	100.00	(実質欄)3ランク	99.90	100.00	(実質欄)2ランク	
393	100.52	101.32	100.52	101.32	割れ目ぞいの風化、砂状化が進む。岩片の硬さも軟化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。	100.52	101.32	100.52~101.32m: 割れ目沿いの風化、砂状化が進む。岩片も軟質化し、硬さ「C」主体で部分的に硬さ「B」が残留。長石は白濁化する。	
394	100.84	100.89	100.84	100.89	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10mm岩片と共に「砂礫状」呈する。	100.84	100.89	100.84~100.89m, 101.23~101.32m: 割れ目沿いに砂状化が拡大。径5~10mmの岩片と共に砂礫状を呈する。	
395	101.23	101.32	101.23	101.32	割れ目ぞいに砂状化が拡大。φ5~10mm岩片と共に「砂礫状」呈する。	-	-	-	上記と記事内容が同じであるためまとめ書きした

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
396	101.32	102.05	CM ほぼ未風化で、挟雑物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。	101.32	102.05	CM ほぼ未風化で、挟雑物も分布しない。 一部に密着度の低い割れ目も分布している。	101.32	102.05	101.32~102.05m:CM ほぼ未風化で、挟雑物は分布しない。一部に密着度の低い割れ目も分布している。	
397	102.05	104.65	CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。	102.05	104.65	CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」と軟化が進んでいる。	102.05	104.65	102.05~104.65m:CL 103.70m以浅では硬さ「B」主体で硬さ「C」「D」も分布。103.70m以深では硬さ「D」で軟化が進んでいる。	
398	102.05	102.41	約10m/m間隔で細かく密着度の低い仰着割れ目が多い。	102.05	102.41	約10m/m間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。	102.05	102.41	102.05~102.41m:約10m/m間隔で細かく密着度の低い潜在割れ目が多い。	
399	102.41	102.94	硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに1~3mm/m程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。	102.41	102.94	硬さ「B」岩片主体。割れ目ぞいに幅1~3mm程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。	102.41	102.94	102.41~102.94m:硬さ「B」の岩片主体。割れ目ぞいに幅1~3mm程度と薄く砂状化する。粘土化部は分布しない。	
400	102.94	103.17	20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。	102.94	103.17	20~30° 割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」と軟化する。	102.94	103.17	102.94~103.17m:20~30° の割れ目ぞいに風化・砂状化が広がっている。岩片自身も硬さ「D」で軟化する。	
401	103.17	103.70	割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「仰着割れ目」が多い。	103.17	103.70	割れ目ぞいの砂状化や挟在物の分布は認められないが、一部で密着度の低い「潜在割れ目」が多い。	103.17	103.70	103.17~103.70m:割れ目ぞいの砂状化や挟在物は認められないが、一部で密着度の低い潜在割れ目が多い。	
402	103.70	104.65	風化が進み岩片も含め全体が軟化している。処々に幅1~2m/m軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。	103.70	104.65	風化が進み岩片も含め全体が軟化している。所々に幅1~2mm軟質な白色粘土を脈状に含んでいる。	103.70	104.65	103.70~104.65m:風化が進み、岩片も含め、全体が軟化している。所々に幅1~2mmの軟質な白色粘土を脈状に含む。	
403	104.65	107.15	CM 104.14~104.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	104.65	107.15	CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	104.65	107.15	104.65~107.15m:CM 105.14~105.19m間を除き、硬質で挟在物は殆んど分布しない。	
404	104.14	104.19	上下端とも40° 割れ目に囲まれて締った砂状~φ2~3mm/細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5mm以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	105.14	105.19	上下端とも40° 割れ目に囲まれて硬質な砂状~φ2~3mm/細片化する。下端面に白色粘土のフィルムが付着。区間内全体にφ0.5mm以下と微細な黄鉄鉱が点在する。	105.14	105.19	105.14~105.19m:上下端とも40° の割れ目に囲まれて、硬質な砂状~径2~3mm/細片化する。下端面に白色粘土がフィルム状に付着。区間内全体に径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱が点在する。	
405	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20~30mm/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	105.70	105.83	割れ目が交差し、φ20~30mm/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	105.70	105.83	105.70~105.83m, 106.68~106.73m:割れ目が交差し、径10~30mmに岩片化する。各割れ目は砂や粘土が付着していないほぼ未風化な面をもつ。	・記事内容がほぼ同じであるため、106.68~106.73mの記事を含めて記載した
406	106.21	106.81	仰着割れ目が多いが密着度は高くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは概し開口割れ目化している。	-	-	-	106.21	106.81	106.21~106.81m:仰着割れ目が多くハンマーの強打でも分離・細片化しない。密着度の低いものは開口割れ目化している。	
407	107.68	107.73	割れ目が交差し、φ10~20mm/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	106.68	106.73	割れ目が交差し、φ10~20mm/mに岩片化する。各割れ目面には砂や粘土は付着していないほぼ未風化な面である。	-	-	-	・上記と記事内容がほぼ同じであるためまとめ書きした
408	107.15	107.62	CL 割れ目ぞいにφ3~5mm/mと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面である。 面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。	107.15	107.62	CL 割れ目ぞいにφ3~5mm/mと細片化する部分もあるが、砂状~粘土状挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面である。 面の一部は淡緑色化する。これは緑泥石化変質で粘土化は伴わない。	107.15	107.62	107.15~107.62m:CL 割れ目ぞいに径3~5mmに細片化する部分があるが、割れ目に砂状~粘土状の挟在物は分布せず。ほぼ未風化な面をもつ。面の一部は緑泥石化変質により淡緑色化するが、粘土は伴わない。	
409	107.60	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m~114.06m間は幅10~30m/m間隔程度の密着度の低い「仰着割れ目」も含んでいる。 ほぼ未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	107.62	115.99	CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。 110.10m~114.06m間は幅10~30mm程度の間隔の密着度の低い「潜在割れ目」も含んでいる。 ほぼ未風化で、割れ目挟在物も殆んど分布しない。 108.00~110.10m間は、30~50° の割れ目主体。一部は交差して岩片状を呈する。	107.62	115.99	107.62~115.99m:CM 岩片は硬いが、割れ目が多い。110.10~114.06m間は10~30mmの間隔で密着度の低い潜在割れ目も含んでいる。ほぼ未風化で、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。108.00~110.10m間は、30~50° の割れ目が主体で、一部は交差して岩片状を呈する。	
410	108.57	108.60	40° 割れ目ぞいに幅1mm/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	108.57	108.60	40° 割れ目ぞいに幅1mm/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	108.57	108.60	108.57~108.60m:40° の割れ目ぞいに幅1mm/m程度砂状化する。上端面には暗緑色砂がフィルム状に付着。微細な黄鉄鉱を伴っている。	
411	110.40	110.51	白色化した「仰着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。	110.40	110.51	白色化した「仰着割れ目」ぞいに分離し、開口割れ目化している。	110.40	110.51	110.40~110.51m:白色化した仰着割れ目ぞいに分離し、開口割れ目化している。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

No.	コア観察カード		記事		適正化すべき記事内容		記事		報告書柱状図記事		No.	記事	適定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度					記事
			コア観察カードから正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>					追加変更した情報が正しく転記されているか？ <input checked="" type="checkbox"/>							
412	111.37	111.37	75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2mm砂状化。これに交差する30° 割れ目は切られている。		111.37	111.37	75~80° 割れ目ぞいの一部で幅1~2mm砂状化。これに交差する30° 割れ目は止められている。切られぬ。砂状化部の分布は途切れており連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩壁に原岩組織が見られる。		111.37	111.37	111.37m:75~80° の割れ目ぞいの一部で幅1~2mm砂状化。これに交差する30° の割れ目は止められている。砂状化部の分布は途切れており、連続性に乏しい。高角度割れ目周辺の岩壁に原岩組織が見られる。				
413	112.41	112.44	5° 前後の割れ目ぞいに片状化。岩片は軟質化しない		112.41	112.44	5° 前後の割れ目ぞいに片状化。岩片は軟質化しない		112.41	112.44	112.41~112.44m:5° 前後の割れ目ぞいに片状化するが、岩片は軟質化しない。				
414	-	-	-		113.56	113.60	アブライト脈を挟む。傾斜25°、幅4cm。花崗斑岩との境界は明瞭で中庸している。		113.56	113.60	113.56~113.60m:傾斜25°、幅4cmのアブライト脈を挟む。花崗斑岩との境界は明瞭で中庸している。				
415	113.63	113.81	白色の「中庸割れ目」が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含まれる。		113.63	113.81	白色の「潜在割れ目」が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含まれる。		113.63	113.81	113.63~113.81m:白色の潜在割れ目が5~10mm間隔で細かく分布。密着度の低いものも含む。				
416	114.37	115.70	緑色系色調に変化する。		-	-	-		114.37	115.70	114.37~115.70m:緑色化している。				
417	114.65	114.65	80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着		114.65	114.65	80~85° 割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は湾曲して凹凸しているが、割れ目のみ合わせは良い。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。		114.65	114.65	114.65m:80~85° の割れ目の一部に鏡肌と厚さ0.5mm以下の暗緑色粘土がフィルム状に付着。割れ目は湾曲して凹凸しているが、割れ目のみ合わせは良い。割れ目周辺の岩壁に原岩組織が見られ、系統的な割れ目も存在しない。				
418	115.33	115.70	暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2mm斑点状~幅1mm脈状で分布する。特に前者で分布が多い。		115.33	115.70	暗緑色鉱物(緑泥石)がφ1~2mm斑点状~幅1mm脈状で分布する。特に前者で分布が多い。		115.33	115.70	115.33~115.70m:暗緑色鉱物(緑泥石)が径1~2mmの斑点状~幅1mmの脈状で分布する。特に前者が多い。				
419	115.70	-	115.70m以深で橙色の正長石が多く晶出。全体の色調が橙色に変化。		115.70	116.40	ベグマタイト、径1~10cm程度の橙色のカリ長石、灰白色の長石、石英が多く晶出し、全体の色調が橙色に変化。		115.70	116.40	115.70~116.40m:ベグマタイト、径1~10cm程度の橙色の橙色の長石、灰白色の長石、石英が多く晶出し、全体の色調が橙色を呈する。				
420	115.99	116.49	CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30mm主体に岩片化している。 割れ目ぞいの多くは幅1~3mmで砂状~細密片状化する。		115.99	116.49	CL 割れ目が細かく分布し、φ10~30mm主体に岩片化している。 割れ目ぞいの多くは幅1~3mmで砂状~細密片状化する。		115.99	116.49	115.99~116.49m:CL 割れ目が細かく分布し、径10~30mm主体に岩片化している。 割れ目ぞいの多くは幅1~3mmで砂状~細密片状化する。				
421	116.18	116.37	116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。		-	-	-		116.18	116.37	116.18~116.37mでは石英の晶出が多く、全体が珪質となる。				
422	116.49	119.47	CM 挟持物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mmで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部ではφ5~10mm程度に細片状化する部分もある。		116.49	119.47	CM 挟持物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mmで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部ではφ5~10mm程度に細片状化する部分もある。		116.49	119.47	116.49~119.47m:CM 挟持物のない割れ目が多いが、一部で幅1~2mmで砂状化部や粘土部をはさむ割れ目も分布する。また、割れ目交差部の一部では径5~10mm程度に細片状化する部分もある。				
423	117.21	117.21	70° 割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上盤側約10mmは弱風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。		117.21	117.21	70° 割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上盤側約10mmは弱風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。		117.21	117.21	117.21m:70° の割れ目に幅2mmで硬質な暗緑色鉱物脈(緑泥石)が断続的に分布する。その上盤側約10mmは弱風化し淡褐色化するが劣化は伴わない。				
424	118.12	119.10	30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。		118.12	119.10	30° 前後と70~80° 割れ目が交差し、その一部ではφ5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。		118.12	119.10	118.12~119.10m:30° 前後と70~80° の割れ目が交差し、一部では径5~10mm程度で片状化している。砂状化や粘土化は伴わない。				
425	118.23	118.53	20~30° の「中庸割れ目」が10~20m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く開口割れ目化している。		118.23	118.53	20~30° の「中庸割れ目」が10~20m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く開口割れ目化している。		118.23	118.53	118.23~118.53m:20~30° の中庸割れ目が10~20m間隔で同方向に分布。一部では密着度が低く開口割れ目化している。				
426	119.09	120.79	(地質名欄)Ap		119.09	120.79	(地質名欄)Ap		119.09	120.79	(地質名欄)アブライト				
427	-	-	-		119.09	120.79	アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。		119.09	120.79	119.09~120.79m:アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。				
428	119.47	119.47	40° 割れ目に幅1mm暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ。φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱伴う。		119.47	119.47	40° 割れ目に幅1mm暗緑色粘土脈(緑泥石)はさむ。φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱伴う。		119.47	119.47	119.47m:40° の割れ目に幅1mmの暗緑色粘土脈(緑泥石)を挟む。径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱を伴う。				

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		記事 選定した記事内容
					記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)				
					追加変更した情報が正しく転記されているか?				
					追加変更した情報が正しく転記されているか?				
429	119.47	120.00			(変更欄)3ランク	119.47	120.00	(変更欄)2ランク	
430	119.47	120.00			CL 30~40° 割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目そしに薄く砂状化するものが多い。	119.47	120.00	CL 30~40° 割れ目がほぼ同方向に1~3cm間隔で分布する。割れ目沿いに薄く砂状化するものが多い。	
431	119.75	119.88			幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状にはさまることが多い。	119.75	119.88	幅1mm以下の緑灰~灰白色粘土を脈状に挟むことが多い。	
432	-	-			堅硬 30~90° 割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。割れ目挟在物は分布しない。	120.00	120.63	堅硬 30~90° 割れ目がほぼ同方向に分布する。白い筋状の付着割れ目が多いが周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。一部で既に開口化している。割れ目挟在物は分布しない。	
433	120.63	120.65			破砕帯(主せん断面120.65m)	120.63	120.65	破砕部(最新活動面120.65m)	
434	120.63	120.65			Hb 上端は12~32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。φ2~3mm/m石英粒。φ3~10mm/m岩片計20%程度含む軟質な粘土質土塊を呈する。色調はオリーブ灰(2.5GY 6/1)。厚さ15~25m/m	120.63	120.65	Hb 上端は12~32°で湾曲して、下端32°で直線的に連続。φ2~3mm石英粒。φ3~10mm岩片計20%程度含む軟質な粘土質土塊を呈する。色調はオリーブ灰色(2.5GY 6/1)。厚さ15~25mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
435	120.65	120.65			Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない軟弱粘土(カウジ)。色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ1~3m/m	120.65	120.65	Hc-1 32°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片を殆んど含まない軟弱粘土(カウジ)。色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ1~3mm。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	
436	120.63	120.65			(岩級区分欄)D	120.63	120.65	(岩級区分欄)CMに含める	
437	120.65	121.03			CM 堅硬。やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	120.65	121.03	CM 堅硬。やや割れ目が多いが挟在物は分布しない。上端側は緑泥石化により緑灰色を呈する。劣化はない。白い筋状の付着割れ目は周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。	
438	121.03	122.23			CH 堅硬。割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。φ1~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多く、色調は緑灰色を帯びる。	121.03	122.23	CH 堅硬。割れ目少なく、柱状~長柱状(コア長20cm以上)コアからなる。φ1~3mm暗緑灰色の緑泥石斑点が多く、全体に緑灰色を帯びる。	
439	122.23	122.42			(変更欄)3ランク (岩級区分欄)CL	122.23	122.42	(変更欄)2ランク (岩級区分欄)CMに含める	
440	122.23	122.42			CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマー打撃で分離・細片化し、多いものが多い。	122.23	122.42	CL 上位よりやや風化が進み、岩芯や割れ目の一部が褐色化する。白い筋状の付着割れ目もハンマーの打撃で分離・細片化し、多いものが多い。	
441	122.42	122.97			CM 堅硬であるが、一部でハンマー打撃で分離し易い付着割れ目も含む。割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。φ5~10mm褐色のかり長石斑点が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	122.42	122.97	CM 堅硬であるが、一部でハンマーの打撃で分離し易い付着割れ目も含む。割れ目は薄く褐色化するが挟在物は分布しない。φ5~10mm褐色のかり長石斑点が点在し、白濁化した長石は殆んど分布しない。	
442	-	-				122.30	122.89	高角度割れ目が連続する。	



## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			
443	122.97	133.41	CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70° 割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。	122.97	123.41	CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70° 割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。 割れ目挟在物は殆んど分布しない。	122.97	123.41	122.97~123.41m: CL 堅硬。風化や変質による劣化はないが、割れ目が多く、60~70° の割れ目が同方向に1~5cm間隔で分布する。割れ目に挟在物は殆んど分布しない。
444	122.97	123.41	(岩級区分欄)CL	122.97	123.41	(岩級区分欄)CM	122.97	123.41	(岩級区分欄)CM
445	133.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や「ゆ着割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2mm/暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	123.41	125.38	CM 一部で密着度の低い割れ目や「潜在割れ目」が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化する(分離・細片化しないものもある)。 ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は肉眼では認められない。 全体にφ1~2mm暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。	123.41	125.38	123.41~125.38m: CM 一部で密着度の低い割れ目や潜在割れ目が分布し、ハンマーの強打で分離・細片化するものがある。ほぼ未風化・未変質で長石の白濁化は認められない。全体に径1~2mmの暗緑灰色の緑泥石を斑点状に含み緑灰色を帯びる。
446	124.30	124.30	124.30m付近でコアが片状化するが、これはコアチューブ引上げ時に人為的に発生した乱れである。	-	-	-	124.30	124.30	124.30m付近は、コアチューブ引上げ時の擾乱によりコアが片状化する。
447	124.90	129.59	(地質名欄)Gp	124.90	129.59	(地質名欄)Ap	124.90	129.59	(地質名欄)アブライト
448	-	-	-	124.90	129.59	アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	124.90	129.59	124.90~129.59m: アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。
449	125.00	125.38	白い筋状のゆ着割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。	-	-	-	125.00	125.38	125.00~125.38m: 白い筋状のゆ着割れ目が多いが、周囲と同化し、ハンマーの強打でも分離しない。
450	125.38	125.70	(岩級区分欄)CL	125.38	125.70	(岩級区分欄)CM	125.38	125.70	(岩級区分欄)CMに含める
451	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆ着割れ目が10mm程度の間隔で分布。 ハンマーの強打で分離・細片化するものも多い。	125.38	125.70	CL 密着度がきわめて低い割れ目や、ゆ着割れ目が10mm程度の間隔で分布。 ハンマーの強打で分離・細片化するものも多い。	125.38	125.70	125.38~125.70m: CL 密着度が極めて低い割れ目やゆ着割れ目が10mm程度の間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するものも多い。
452	125.38	125.38	50° 割れ目ぞい幅10mm/mはφ3~5mm/mの硬質細片状化部。粘土、砂は伴わない。	125.38	125.38	50° 割れ目ぞい幅10mm/mはφ3~5mmの硬質細片状化部。粘土、砂は伴わない。	125.38	125.38	125.38m: 50° の割れ目ぞいが幅10mmで径3~5mmの硬質細片状を呈する。粘土や砂は伴わない。
453	125.70	126.25	CM 一部で密着度が低い割れ目や、ゆ着割れ目を含む。 割れ目挟在物は分布しない。	-	-	-	125.70	126.25	125.70~126.25m: CM 一部で密着度が低い割れ目やゆ着割れ目を含む。割れ目に挟在物は分布しない。
454	126.25	127.00	(変質欄)3ランク	126.25	127.00	(変質欄)2ランク	126.25	127.00	(変質欄)2ランク
455	126.25	127.41	CL 一部で50~60° 割れ目ぞいにφ5mm前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2mmの緑灰、灰白色軟質粘土もはさんでいる。 硬さ「O」岩片主体部は灰褐色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部はふい橙(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。	126.25	127.41	CL 一部で50~60° 割れ目ぞいにφ5mm前後に細片化~砂状化する。また厚さ1~2mmの緑灰、灰白色軟質粘土も挟んでいる。 硬さ「O」岩片主体部は灰褐色(7.5YR 6/2)で残留し、細片化~砂状化部はふい橙(7.5YR 6/4)の色調で、全体では後者色調が主体。 127.00m以深は挟在物は分布しなくなる。	126.25	127.41	126.25~127.41m: CL 一部で50~60° の割れ目ぞいに径5mm前後で細片化~砂状化する。また、幅1~2mmの緑灰~灰白色の軟質粘土も挟む。硬さ「O」の岩片主体部は灰褐色で残留し、細片化~砂状化部はふい橙で、全体では後者の色調が主体。127.00m以深は挟在物は分布しない。

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
456	127.41	127.48	破砕帯(主せん断面127.41m)	127.41	127.48	破砕部(最新活動面127.41m)			●127.41~127.48m: 破砕部 127.41m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない。軟質。灰白色を呈する。幅0.5~1mm。 127.41~127.48m: 粘土混じり礫状部(Hj) 上端50°で直線的、下端50~60°で湾曲して連続。径3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布する。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47mに上位のHe-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン鉱染を伴う。幅40~45mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
457	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰白(10YR 8/1)、厚さ0.5~1m/m	127.41	127.41	Hc-1 50°で上下端とも直線的に連続。石英粒、岩片を含まない軟弱粘土(ガウジ)。色調は灰白色(10YR 8/1)、厚さ0.5~1mm。含まれる細粒部は断続的に分布し、連続性に乏しい。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。				
458	127.41	127.48	Hj 上端50°で直線的、下端は50~60°で湾曲して連続。φ3~5m/mに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2m/mの軟弱粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。127.47mに主せん断面と同方向のせん断面沿いにマンガン鉱染を伴う。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/4)、厚さ40~45m/m	127.41	127.48	Hj 上端50°で直線的、下端は50~60°で湾曲して連続。φ3~5mmに細片化した岩片からなり、岩片間には幅1~2mmの軟質粘土が脈状に分布。岩片は硬さ「D」主体で硬さ「E」も少量含む。全体に粘土混じり礫状を呈する。127.47mに上位のHc-1の粘土と同方向のせん断面沿いにマンガン鉱染を伴う。色調はにぶい黄褐色(10YR 7/4)、厚さ40~45mm。硬質、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	127.41	127.48		
459	127.41	127.48	(岩級区分欄)D	127.41	127.48	(岩級区分欄)OL	127.41	127.48	(岩級区分欄)CLに含める	
460	127.48	128.82	CL 40~60° 割れ目主体で一部で厚さ1m/m以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。	127.48	128.82	CL 40~60° 割れ目主体で一部で厚さ1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。	127.48	128.82	127.48~128.82m: CL 40~60°の割れ目主体で、一部で幅1mm以下の風化砂状部を挟む。粘土は挟まない。	
461	127.82	127.83	上端60°、下端61° 割れ目に囲まれ、φ2~3m/m 破砕状細片を含む固結した中粒~粗粒砂状を呈する。粘土は伴わない。	127.82	127.83	上端60°、下端61° 割れ目に囲まれ、φ2~3mm破砕状細片を含む硬質中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩盤に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	127.82	127.83	127.82~127.83m: 上端60°、下端61°の割れ目に囲まれ、径2~3mmの細片を含む硬質中粒~粗粒砂状を呈する。砂状部中の細片に定向配列は見られない。粘土は伴わない。割れ目周囲の岩盤に原岩組織が見られる。下位の別方向の割れ目にもマンガン汚染した面が見られる。	
462	128.82	128.97	(岩級区分欄)D	128.82	128.97	(岩級区分欄)CL	128.82	128.97	(岩級区分欄)CLに含める	

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)				
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		選定した記事内容			
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度		選定した記事内容			
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
	463	128.82	128.97	破砕帯(主せん断面128.87m)	128.82	128.97	破砕帯(最新活動面128.87m)			●128.82～128.97m:破砕部 128.82～128.87m:砂混じり岩片状部(H) 上端30°で幅1～2mmの軟質緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行～斜交する割れ目と、これに60～90°で斜～直交する割れ目が多く、径3～10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として砂混じり岩片状を呈する。色調は灰赤色(2.5YR6/2)。厚さ50～90mm。 128.87～128.88m:濃混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1～3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質、暗緑灰色を呈する。幅3～5mm。 128.88～128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60～70°と10～30°の割れ目が多く、径5～15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化する。灰赤色を呈する。幅60mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
	464	128.82	128.87	H 上端30°、幅1～2mm軟質緑灰色粘土脈で、下端63°でいずれも直線的に連続。主せん断面に平行～斜交する割れ目と、これに60～90°で斜～直交する割れ目が多く、径3～10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として砂混じり岩片状を呈する。色調は灰赤(2.5YR6/2)。厚さ50～90mm。	128.82	128.87	H 上端30°、幅1～2mm軟質緑灰色粘土脈で、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行～斜交する割れ目と、これに60～90°で斜～直交する割れ目が多く、径3～10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として砂混じり岩片状を呈する。色調は灰赤色(2.5YR6/2)。厚さ50～90mm。 やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	128.82	128.87	●128.82～128.97m:破砕部 128.82～128.87m:砂混じり岩片状部(H) 上端30°で幅1～2mmの軟質緑灰色粘土脈を伴い、下端63°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土に平行～斜交する割れ目と、これに60～90°で斜～直交する割れ目が多く、径3～10mmに岩片化している。岩片間が薄く砂状化する。粘土化は少ない。全体として砂混じり岩片状を呈する。色調は灰赤色(2.5YR6/2)。厚さ50～90mm。 128.87～128.88m:濃混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜63°で上下端とも直線的に連続。径1～3mmの石英粒と岩片を20%程度含む。軟質、暗緑灰色を呈する。幅3～5mm。 128.88～128.97m:粘土・砂混じり岩片状部(H) 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60～70°と10～30°の割れ目が多く、径5～15mmに岩片化する。岩片間に緑色の粘土細脈や薄く砂状化する。灰赤色を呈する。幅60mm。			
	465	128.87	128.88	Hc-2 63°で上下端とも直線的に連続。φ1～3mm石英粒と岩片を20%程度含む軟質粘土(カウジ)。色調は暗緑灰(5G 4/1)。厚さ3～5mm。	128.87	128.88	Hc-2 63°で上下端とも直線的に連続。φ1～3mm石英粒と岩片を20%程度含む。軟質濃混じり粘土状(カウジ)を呈する。色調は暗緑灰色(5G 4/1)。厚さ3～5mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	128.82	128.97				
	466	128.88	128.97	H 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60～70°と10～30°の割れ目が多くφ5～15mmに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。色調は灰赤(2.5YR 6/2)。厚さ60mm。	128.88	128.97	H 上端63°、下端62°でともに直線的に連続。下端は幅2mmの硬質白色鉱物脈と接する。60～70°と10～30°の割れ目が多くφ5～15mmに岩片化。岩片間に緑色粘土細脈や薄く砂状化する「粘土・砂混じり岩片状」を呈する。 色調は灰赤色(2.5YR 6/2)。厚さ60mm。やや硬質で、含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	128.82	128.97				
	467	128.97	129.95	CL	-	-	-	128.97	129.95	128.97～129.95m:CL			
	468	129.11	129.26	風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。	129.11	129.26	風化進み割れ目ぞいに砂状・細片状化する。マンガ ン汚染が見られる。	129.11	129.26	129.11～129.26m:風化が進み、割れ目ぞいに砂状～細片状化する。マンガ ン汚染が見られる。			
	469	129.95	130.79	GM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1～3mm砂を挟むが、これ以外では挟在物は分布しない。	129.95	130.79	GM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1～3mm砂を挟むが、これ以外では挟在物は分布しない。	129.95	130.79	129.95～130.79m:GM 下端側の一部で割れ目ぞいに幅1～3mmの砂を挟むが、これ以外に挟在物は分布しない。			
	470	-	-	-	129.95	130.22	アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。	129.95	130.22	129.95～130.79m:アブライト 花崗斑岩との境界は漸移的である。			
	471	129.95	130.22	(地質名欄)Gp	129.95	130.22	(地質名欄)Ap	129.95	130.22	(地質名欄)アブライト			
	472	130.58	130.58	80°とこれと交差する40～50°の割れ目ぞいで幅1～3mm風化砂を挟む。粘土は伴わない。また80°の割れ目は交差する一部の割れ目を切っている。	130.58	130.58	80°とこれと交差する40～50°の割れ目ぞいで幅1～3mm風化砂を挟む。粘土は伴わない。また80°の割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。切っっている。割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	130.58	130.58	130.58m:80°とこれと交差する40～90°の割れ目ぞいで幅1～3mmの風化砂を挟む。粘土は伴わない。また80°の割れ目は交差する一部の割れ目を止めている場合と横断する場合がある。割れ目周囲の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
	473	130.79	131.95	CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また部分的に淡緑灰～灰白色粘土細脈(幅1mm以下)を伴う。	130.79	131.95	CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に淡緑灰～灰白色粘土細脈(幅1mm以下)を伴う。	130.79	131.95	130.79～131.95m:CL 割れ目ぞいに風化が進み砂状化することが多い。また、部分的に幅1mm以下の淡緑灰～灰白色粘土細脈を伴う。			
	474	131.79	131.79	55°割れ目上端側は厚10～15mm砂状化。灰白色粘土細脈も伴う。	131.79	131.79	55°割れ目上端側は幅10～15mm砂状化。灰白色粘土細脈も伴う。	131.79	131.79	131.79m:55°の割れ目上端側は幅10～15mmで砂状化する。灰白色粘土細脈も伴う。			
	475	-	-	-	131.79	134.23	アブライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。	131.79	134.23	131.79～134.23m:アブライト 上端は55°の割れ目、下端は破砕部となっている。			
	476	131.79	133.75	(地質名欄)Gp	131.79	133.75	(地質名欄)Ap	131.79	133.75	(地質名欄)アブライト			